



ジャスティス

# JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン

発行責任者 菅野一位  
編集責任者 瀬戸信作

〒105-0021  
東京都港区東新橋2-8-28  
TEL(JR) 057-7333  
TEL(NTT) 03-6452-9687

ホームページ検索  
「JREユニオン」

コンセプト 自らを変える!! 明日を創る!!  
イースト イノベーション!!

## ジェイアール・イーストユニオン 第5回 定期大会

民主的労働運動を次代に引き継ぐため、  
ビッグイノベーションを巻き起こし  
全力をもって組織拡大に邁進しよう!

イーストユニオン中央本部は7月10日、東京都田町交通ビルにおいて、大会構成員、来賓、傍聴者を含む55名の出席で「第5回定期大会」を開催した。

大会議長には、渡辺代議員（新潟）を選出しスムーズな議事運営がされた。  
JR連合からは松岡会長を迎えた。質疑応答は10名の代議員から運動方針の補強や組織拡大について活発な質問や意見が出され各議案は満場一致で承認された。

議長  
渡辺代議員（新潟）



皆さんの協力の下、議事をすすめたい、ご協力をお願いします。

中央執行委員長  
菅野一位

（挨拶・要旨）

九州地方 福岡県大分県での豪雨により、お亡く



なりになられた方々のご冥福をお祈りすると共にお怪我された方々の一日も早いご快癒をお祈りし、被災に遭われた皆様へのお見舞いを申し上げます。私たちが経験した東日本大震災から6年が経過しました。全国からご支援いただいた皆さんへのご恩返しと、企業内労働組合として、地域社会にもご恩返しができる労働

運動を創りあげていきたいと思えます。

さて、国政選挙の前哨戦と言われた東京都都議会議員選挙は、小池知事が代表を務めた「都民ファーストの会」の圧勝で終わりました。都民有権者の判断は、自民党からの変革でした。

JR東日本グループ各社としては、大変好調な経営状況を維持している中で、国鉄世代からJR世代への社員の移り変わりの大きな狭間に入り込んでいます。そのような中で、是々非々で対応してきたJR東日本の労務対応が、スト権を掲げたJR東労組に異を唱えた政府官僚筋から、経営責任問題を問われたとの情報が流れた途端、JR東労組から「スト権」の言葉の解消に走ったとしか思えない様な事象が見え隠れしました。

国鉄改革30年の歴史から学ぶDVDでの社員教育は何を伝えようとして実施したのか、これまでの是々非々での労務対応はなんだったのか、若干疑念を抱いてしまいました。政治からの介入が国鉄崩壊の原因のひとつであったことを思い起こし、是々非々での対応を

ぜひ奮いたたせ、今抱えている次の30年への継承問題の解消に突き進んでいただきたい。スト権を掲げた労働組合との「労使共同宣言」が、当たり前前の労使関係であるはずがないことへの変革の実践を強く要望します。一点目は、安全問題と

真のパートナーについて、この間続いてきた重大インシデントは、現場社員の必死の取り組みから連鎖的な状況から脱することができたかと思われま

す。しかし、鉄道業務を次世代に継承するための根本的な問題が解決されたいわけではありません。重大インシデントによる事故が一度発生すれば、お客様や働いている人の命をも脅かします。「どこに問題があるのか」「何をしなければならぬのか」を、技術継承と人材育成の観点からしっかりと議論すること、安全の取り組みは労使共通の課題とし、重大インシデントの撲滅、繰り返し発生する事象の撲滅に、社員一人ひとりに強い意識と責任を持たせる取り組みが必要で

す。そのうえで現場での課題に真摯に向き合い、考え・意見を



自由闊達に言える職場づくりによりイースト運動として取り組んで行きます。また、スト権を確立した労働組合と「労使共同宣言」を結んでいることは是々非々を、しっかりと見直すことの認識をすべ

きです。今から3年後は2度目の東京オリンピック開催です。関東圏の輸送体制の確保には、企業責任はもとより国家的な責任があります。3年後にどうするかではなく、一年一年の積み重ねの結果が社会的信頼になっていきます。そして安全施策の責任者は会社であり、パートナーは信頼関係に値する企業内労働組合です。究極の安全、絶対的な安心へ向けて、真のパートナーとしてイーストユニオンは会社との交渉に臨んでいきます。

考えている社員たちです。私たちの変わらぬ思いを、その社員たちへ真剣に伝えること、その繰り返しを力強く実践することを願っています。今、JR東日本の中には変わろうとする社員、変わりたい社員が間違いなくいます。その社員の人たちへの声掛けをなくして、組織拡大はありません。三点目は、働き方大改革とイースト運動づくりです。当たり前前の労働組合と

次の協力会社をも巻き込んだJR東日本の土台を創ることが、次の30年につながる礎になります。働き方大改革のために、社員個々人の責任と意識改革が重要なポイントです。しかし組織として変えることの責任は、会社の責任です。この二つの責任を遂行させるのが労政であり、JR東日本のインフラ企業としての企業責任です。次の30年は、イノベーションした「働き方大改革」で第3の出発をききな形です。イーストユニオンは良識ある労政のパートナーとして、積極的に「働き方大改革」に取り組みで行きます。最後にありますが、イーストユニオンが結成から4年目となり、これまでの1年をしっかりと検証し、今日からの1年を大切に運動することの議論をお願いいたします。そしてイーストユニオンの躍進と組織の確実な継承に向けて、一丸となって皆さんと取り組む決意を申し上げ、中央本部執行部を代表してのご提起とご挨拶いたします。

JR連合 松岡会長



・ JR30年とJR連合25年を迎えた、5年のタイムラグがJR総連とJR連合の民主的な組織運営の差である。キーポイントは、非民主的労働運動である。・ JR連合の旗を東日本で守り拡大できるのはイーストユニオンだけだ、JR連合も一緒に闘って行く。・ 民主的な組合は反自民非共産である。民進党には、もっと頑張ってもらいたい。・ ネットで100年後に残る企業があった。1位はトヨタ、3位はJR東日本、7位にJR東海、100位以内にJALやJR西日本があった。しかし、東芝の例もある、不祥事は起こしてはならない。・ 連合と政府、「働き方改革」について話が進んでいる。労基法70年です。規制のある法案である。大切なことは、会社と組合が決める労使協議である。

・ JR連合として、在るべき労使関係を大切に進めていく。・ JR北海道、北海道ユニオンが組織拡大を果たしている。・ 政策のJR連合をさらに進めていく。・ 只見線の上下分離、安易な政治介入をさせてはならない。・ 衆議院選、来年の12月までに1回ある。政権交代を含め共に頑張ります。

◎鎌田 JR東海ユニオン 中央執行委員長



・ JR連合へ、正式加盟おめでとうございます。・ JR東海の社員は8,000人、JR東海ユニオンの組合員は18,000人。・ 現在なお、組織拡大に努めている。・ 以前は、人間関係で大変苦労した時代があった。今は、40歳代が分会長である。10才以上も上の方をオルグし組織拡大に繋げている。(東海労・JR総連は50代)

・ 国鉄改革から一企業一労働組合を目指し労使共同宣言、H24を結んできた。・ 東海ユニオンは、国鉄改革では無く新たな労使関係がテーマになっている。将来に向けた運動を作っている。

◎かわい たかのり 参議院議員



・ 昨年7月、参議院議員に3年ぶりに復帰した。JR連合、JREユニオンのご支援に感謝している。・ 全国区で活動している。健全な民主主義が大切。・ 民主的労働運動は、左翼と一緒に成れない。・ JR連合とイーストユニオンは、戦間的に民主的労働運動を守ってきた組合だ。・ 九州豪雨、鉄道のインフラを構築していきたい。・ 今、大切なことは、国会の中に民主主義を確立させていくことだ。

◎井上



春日部市議会議員

・平和運動を語りながら耳触りの良いことを言う輩が多い。  
・正しいことは正しいと言うことが大切。まずは、行動が大切です。

◎松井



全交通共済生協 東日本事業 本部長

◎松田



JREユニオン 退職者の会 会長

質疑・応答

◎神田



代議員 (新潟)

◎中村



代議員 (関東)

◎水間



代議員 (仙台)

◎高橋



代議員 (関東)

◎柄窪



代議員 (仙台)

◎添田



代議員 (仙台)

◎鈴木(義)



代議員 (仙台)

◎関根



代議員 (仙台)

◎和知



代議員 (関東)

◎船山



特別代議員・設備部会

代議員 発言要旨

・車イス、ホーム上での引きずり、車掌はなぜ、非常スイッチで列車を止められなかったのか。個人の問題では無い。職場全体の問題である。  
・職場から、革マル廃除に我々は闘ってきた。東労組はスト権を提起、確立した。  
・JREユニオン将来の組織、JR連合の旗を守り拡大すると言っても数が少なすぎる。これからの30年を見越した若年層の組織拡大が急務。  
・九州豪雨、JR連合を通じた支援の確立をしよう。  
・JR30年、会社のスキム通り進んできた。これからの30年に、どう向き合うのか。まずは、会社にしっかりしてほしい。  
・私たちが目指した笑顔が競い合える職場になっていない。  
・JR連合とJR総連の違いを本部から本社へ伝えてほしい。  
・アウトソーシング(外注化)の進度化、地方で問題が多く出ている。本当に安全が保たれるのか疑問を感じる。  
・協力会社、パートナー

会社の安全問題を話ができない、本当にこれで良いのか。  
・本社、本部間の話で地方の独自性を活かす努力をしてほしい。  
・チーム公共交通、我々の鉄道産業だけが声を出しているのではないか。  
・陸・海・空、の労働者が一体となって政府や行政に対応しなければならぬ。  
・賃上げベースアップ、労働条件を上げることが良い人材を集める手段である。  
・管理手当がUPした、管理手当は単なる生活給ではないと思う。業務が円滑に進むために使われているのか会社と組合の考え方を一致させてほしい。  
・限られた活動費であるメリハリを付けた執行体制を作ってほしい。使うもの節約するものもしっかりしてほしい。  
・JR連合に正式加盟になった。記念すべき第5回定期大会である。  
・7/15、2、「オイスカー」ボランティア名取に仙台から5名が参加した。  
・只見線、7月上旬に仙台地本として視察に行く。これから復旧が進められ

る、2度と橋りょうが落ちないようにしっかり作ってほしい。JRの過大な負担に成らないようにイーストとして声を出して行こう。  
・磐越西線、ワンマン列車の運行視察をした。感じることを会社に伝えていきたい。  
・仙台駅の出札窓口委託が昨年の4/15見合わせとなつている。2020まで委託計画がある。委託が目的ではないと思う。委託後のイメージを社員に示すように本社・本部間で話をしてほしい。  
・組織拡大の結果を出して行きたい。新組合員の対策を本部として考えてほしい。(新入組合員の組合費対応とか)  
・九州豪雨のお見舞い、6年前の大震災で大いに助けられた、私たちは何か支援をしたい。  
・仙台地本は、昨年の大会より職場訪問を3か所、行ってきた。分会集会を4回、行ってきた。ポーターリング大会も開催してきた。  
・昨年12月、常磐線が一部運転再開をした。再開区間の視察も行った。  
・6月から、地本事務所の期間常駐体制を図り、



組合員との連携を強化している。

- ・6月、JR四国労組の訪問をおこなった。民主化闘争交流である。
- ・昨年12月、仙台は組織拡大を達成している。
- ・東労組のスト権、論議中に仙台支社内で5名が脱退したとウワサがあった。
- ・東労組の受け皿に成るために何が必要なのか全体で考えよう。私たちは自分の信念に基づき共に行動しよう。道を拓こう。
- ・JR連合大会の代議員として発言をした。JR連合の旗を守るにはJR東ユニオンだけである。JR東ユニオンとしてもっともつと頑張ろう。
- ・組織拡大のために職場のリーダーになろう、今一歩踏み出そう。1年1

年が大切な時だ。

- ・安全問題、同じ事故が起きている。ルールが守られていない守られないルールはルールではない。
- ・エルダーの本体採用、突如でてきた。なぜ、突然出てきたのか、本部として本社の考えをきいてほしい。
- ・定年制度、年金支給の政府対応が変わるので第二の人生設計が定まらな
- い。
- ・65才定年制、60才以降の給与の在り方が問題だ。
- ・来年、4/1から本体エルダー、要員問題もあるのか。毎年3,000人が退職する。本体エルダーを前向きに考えてほしい。併せて、組織拡大に繋がれるように。
- ・現在出向中である。出向先のグループ社員の組織拡大に向けて頑張っている。本部の支援を頼む。
- ・8月、裏磐梯で本部キャンプの準備を仙台が担当する。多数の参加を願
- いする。
- ・本年6/1エルダーになった。委託駅の教育訓練が現場にマッチしていない。出来ること出来ない事が伝えきれない
- い。
- ・駅で人身事故、元JR

社員は良いが、あまり教育を受けていない。プロパー社員がいないのが実態だ。

- ・エルダーは組合員だが委託先のプロパーはパイパンである。イーストとJR連合が連携を取って組織拡大に繋がる助言をしてほしい。
- ・本体エルダーに関し、良い点、悪い点がある。具体的な労働条件を知りたい。人選に差別が無いように頼む。
- ・技術継承、人材育成、きれいごとばかりではない。メンテナンスの再構築が必要だ。若い社員に泥臭い作業をさせていない。TBM、CBM、期間修繕からコンディション修繕に考え方が変わってきている。
- ・教育スパン、7年で1人前である。人工計算、一人前の仕事が出来なくても一人分である。現場は大変である。

**中間答弁・各部**

★安全関係

- ・作業のルール作り、JR連合で冊子を作っている
- ・事故防止に向けて、JR連合の冊子を活用してほしい。
- ・会社の考えが現場に届

いていない。定着していない。

- ・若い社員は、試験合格に向けてインフォーマル(CS等)に力を入れるが本来業務に力を入れる時間が取れなくなっているのではないか。本末転倒である。
- ★組織拡大、組織関係
- ・グループ会社も併せて一緒に考え行動していこう。まずは、全体で一歩前に踏み出そう。
- ・30年間、会社はパートナー労組を変えていない。会社にも問題がある。
- ・私たちは、4年前、このままでは良くないと判断し、この組織を立ち上げた。我々が組織拡大を図って目的を達成するの
- か道筋である。
- ・本体エルダー、みなさんの声を聞きたい。
- ★政策
- ・JR連合の3つのプロジェクト活動(PIT)、「三島・貨物経営安定化PIT」
- ・「貨物鉄道モーターシフトPIT」
- ・「鉄道特性活性化PIT」と連携を取って意見交換をしよう。
- ・只見線、上下線分離、年間2億1千万円の負担である。
- ・只見線の復旧工事、悩みながら着々と工事日程

が進んでいる。

- ★業務
- ・交渉では、会社と社員が将来、良く成るように考えて交渉に臨んでいる。
- ・働く者の幸せの形は色々あって良い。最終地点を
- 目指した交渉でもない。
- 少しでも問題解決が前進できるように交渉を進めている。
- ・国鉄世代、あと7年でいなくなる。国鉄改革で大きな支援を受けてきた。どのような恩返しが良いのか考えなければならぬ。我々だけが良ければ良いと言ふことでは無い。
- ・駅業務、「びゅう」は全面移管、本社は情報を前広にだしてこない。
- ・管理手当、生活給になっている。スキルUPの為に研修や知識向上にお金を使ってほしい。また、各種研修に行ったらリターンを求めるべきである。
- ・経営協議会、グループ会社のことを本社は話せないと言ふが、決算はグループ決算である。賃上げに関して本日よりグループ会社の労働条件の底上げをイーストは訴えている。
- ・経協や団交等の話は無駄では無い。交渉等でイーストが席上で提案す

ることがある。2週間位たつと本社指示でお客さまの対応が変わったこともある。お客さまの声を本社に伝えることも大切である。

**総括答弁**

**国井事務局長**



・10名の方から発言があった。

- ・会社はスピード感を訴えている。我々はスピード+納得のいく相互理解が大切である。
- ・我々の求めるのは、会社の発展と同じく働く仲間の安心感や納得感である。
- ・まずは、1人が10人と話をしてほしい。結果を出していこう。
- ・JR連合に正式加盟した。JR連合の旗を守り拡大できるのは我々だけである。まずは、組織拡大を全体で達成しよう。



## 大会宣言

本日、私たちは、田町交通ビルにおいて、第5回定期大会を開催し 当面の運動方針を確認するとともに、全組合員が一丸となって力強く突き進むことを満場一致で決定した。

2014年5月 ジェイアール・イーストユニオンを結成し、JR東日本の企業内労働組合として、会社の社会的信頼と発展がそこで働く社員の幸せに直結することであるとし、会社発展のため施策提言型運動をベースに、労働組合としてのチェック機能と民主的な労働運動を展開してきた。

国鉄時代への回帰を思わせるような労働組合運動を展開している組合もあり、組合運動が左傾化してきていることに危惧をしている。2017春闘では、JR総連JR東労組が「スト権を確立して闘う」とし、全職場での一票投票が行われその賛同率は80%を超えたと聞く。もちろんスト権を頭から否定するものではないが、21世紀労使共同宣言を発表し、平和裡な労使間で真摯かつ率直な話し合いにおいて課題・問題の解決を図るとしているにも関わらず、JR東労組がスト権をバックに交渉を進めるのは普通感覚ではないと感じるのは私たちだけではない。

国鉄採用社員からJR採用社員へ、時代の継承とともに鉄道の歴史と責任も継承しなければならない。新たな30年を見据えた中で、企業は早急な変革を求めているが、はたして働く側の意識改革は進んでいるのかと一つの疑問を抱かざるをえない。そういった意味では今からの二年間は大変重要な時期である。今こそイーストイノベーションにおいて労政転換し、革マル派を放逐し真の国鉄改革を成し遂げなければならない。「万里一空」目標を見失うことなく、私たちはこの一年間にかかる思いを全組合員で共有し組織拡大に邁進する。

安全の確立はすべてのJR労働者にとって必要不可欠だが、安全の最高責任者は会社である。安全の取り組みは労使共通の課題とし、重大インシデントの撲滅、繰り返し発生する事象の撲滅には、社員一人ひとりの強い意識と責任が重要である。また、多発する自然災害による鉄道被災への対応も怠ってはいけない。現場での課題に真摯に向き合い、考え、意見を自由闊達に言える職場があってこそ安全の確立が成し遂げられることを確認し、労使一体となった取り組みを妥協なく推し進めていかなければならない。JR東日本の社会的信頼の更なる向上には、当たり前前の労働組合と当たり前前の労使関係の構築が大前提である。スト権を確立した労働組合と労使共同宣言を結んでいることの是々非々を、会社はしっかり見直すことが是々非々の実践であることを認識すべきである。

私たちの窓はいつでも開いている。全国8万名を超える仲間と共に、日本の鉄道を国民の足として安全に安心して利用できるJR東日本を築いていく。そしてジェイアール・イーストユニオンが、責任ある労働組合に躍進できるように、この一年最大限努力することを確認したこの瞬間から、組合員一人ひとりが責任を持って行動する組織戦を実践して行こう。

以上、宣言する。

2017年 7月 10日  
ジェイアール・イーストユニオン  
第5回定期大会